



中山道の石畳 (大妻籠付近)

日本の源流 再発見

File 32 ^{なごそ}長野県木曾郡南木曾町、上松町、木曾町 山に囲まれた宿場町が連なる

長野県は10の広域に分けられており、木曾地域は南西部に位置しています。周囲の山々の景色と昔ながらの宿場町の風景が独特で、木曾町と隣接する塩尻市などと共に、日本遺産「木曾路はすべて山の中 ～山を守り 山に生きる～」に認定されています。



山の緑と空が広がる、時が静かに流れるところ

明治維新前後の動乱期を描いた島崎藤村の『夜明け前』。「木曾路はすべて山の中である」の書き出しで知られていますが、木曾地域は今も変わらず山の中にあり、地域の人々が大切に残してきた昔ながらの町並みも、数多く残っています。

その一つ妻籠宿は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された、全国で初めて古い町並みを保存した宿場町です。江戸時代の雰囲気の色濃く残す町並みと、それを取り囲むようにそびえる山の木々が美しく、まるでタイムスリップしたような非日常が味わえます。

江戸後期の本陣間取りを復元した本陣をはじめ、散策し

ながら楽しめる観光スポットが多く、短時間で巡ることができののも魅力です。

妻籠宿にほど近い馬籠宿との間を結ぶ中山道もまた、江戸時代の趣を色濃く残しています。木々の間を縫うような山道の下にはせせらぎが聞こえ、昔ながらの石畳が残っているところもあり、森林浴が楽しめるトレッキングコースは、外国人にも人気の高いスポットです。

「寝覚の床」は、妻籠宿の北に位置する上松宿近くの景勝地。竜宮城から戻った浦島太郎が諸国を巡る途中、この地の美しさに引かれて住むようになり、ある日岩の上で玉手箱を開けたところ300歳の老人になったと伝わっています。



▲ 寝覚の床

木曾路を旅した俳人の正岡子規が、「いか様仙人の住処とも覚えて尊し」と著しています



▼ 妻籠宿

地域の人々が行政や研究者と協力して集落保存に取り組み、昔ながらの景観が保たれています。電線のない広い空が印象的です

▼ 木曾馬

平均体高が約133cm、粗食に耐える強健な中型馬です。現在木曾地域で約60頭、全国でも約200頭が飼育されているのみです



▲ 山村代官屋敷

屋敷のある木曾福島には、日本四大関所の一つ福島関所がありました。山村氏はその関守を兼ねており、絶大な権力を持っていました

上松宿の隣の福島宿には、約280年間木曾谷の代官を務め、木曾代官と称された山村家の屋敷「山村代官屋敷」があり、現存する下屋敷の一部と庭園を公開しています。

4代目代官の山村良豊やまむらたかとよは江戸時代初期、この地を所轄する尾張藩によって森林伐採が厳しく規制されるなか、森林資源で暮らす木曾領民の生活を支えるべく産業振興を図り、御免白木ごめんしらぎ（使用が許可された材木を割って半製品にした材料）を利用した木工品を地場産業としました。

また、木曾地域の山坂に強い木曾馬の飼育を奨励し、保存に努めました。日本には古来多くの在来馬がいましたが、今では8種を残すのみ。木曾馬は戦争に駆り出されるなど厳しい運命にさらされながらも木曾の人々に愛され、共に生きてきました。開田高原の「木曾馬の里」では、約30頭を飼育しており、木曾馬を間近に見ることができます。



寝覚の床の入り口すぐそばにある「食堂中村」は、1967年創業。昔ながらの味わいで人気の五平餅は、うるち米をつぶし丸めた餅を、鬼ぐるみやゴマなどが入った秘伝のタレでこんがり焼いた逸品です。

日立グループ事業所紹介

今回訪れた長野県には日立建機日本株式会社 北関東・信越支社 長野支店があります。多様化するニーズに迅速に対応するとともに、建設機械、環境リサイクル製品、建設現場の仮設ハウスや一般車両などを対象とした幅広いレンタル事業を全国で展開しています。

日立建機日本株式会社 北関東・信越支社 長野支店

長野県塩尻市広丘堅石2146-38

<https://japan.hitachi-kenki.co.jp/>